

暮らしに役立つ
情報満載



住まいる ニュース

2022
vol.140 7



今月の
特集

24時間 換気システムって？

花粉やPM2.5、黄砂など空気の汚れが気になるこの時代、住まいの換気は健康的な暮らしを送るうえで絶対に欠かせない機能の一つです。そこで今回は建築基準法の義務にもなっている「24時間換気システム」について考えてみましょう。

シックハウスが起因となった 24時間換気システムの義務化

窓を開けなくても外気を屋内に取り込み、屋内の空気を排出することができる「24時間換気システム」が、2003年の建築基準法の改正によって、すべての建築物での設置が義務化されました。住宅では、1時間のうち0.5回以上の空気を換気するという換気回数の基準が設けられています。つまり、1時間換気したときに、屋内の空気の半分以上が入れ替える必要があるということです。そもそもこの法改正が議論されたのは、建物の木質建材や壁紙などに含まれる化学物質が原因となり頭痛やめまい、湿疹といった症状を引き起こす「シックハウス症候群」が多くみられるようになったことがその背景にあります。

「24時間換気システム」は給排気の方法の違いにより、次のように大きく3つに分類されています。それぞれメリットやデメリットが異なるため、その違いを覚えておくと良いでしょう。

第一種換気 給気と排気のどちらにも換気扇を設置して換気する方法。機械制御による換気が可能になる為、効率的な換気が可能です。取り込んだ外気を室温に近づけて給気する熱交換システムも導入可能ですが、電気代がかかるというデメリットも。

第二種換気 給気のみ換気扇を設置して屋内の気圧を外気よりも高い状態にすることで排気口から自然換気を行う

換気法。病院の無菌室や工場のクリーンルームなどで採用されることが多い。屋内の空気が出にくく結露も発生しやすいため、住宅ではあまり採用されません。

第三種換気 第二種換気の換気方法とは反対に、排気のみ換気扇を設置して自然吸気で換気する方法。外気よりも屋内の気圧が低い状態になるため、湿気がたまりにくいというメリットの反面、外気温の影響を受けやすいというデメリットも。「FPの家」ではお客様にメンテナンスの負担が少ないこの第三種換気を主に採用しています。

建物の効率的な換気には
高気密であることが絶対条件

いずれの換気法にしても、亀裂や穴が

空いたストローで飲料が上手く吸えなくなると同様に、隙間が多い家では十分な空気の入れ替えが行われません。そのため、効率的な換気を行うには建物全体が高気密であることが絶対条件なのです。

「FPの家」は、住宅性能を徹底的に高めることで優れた気密性を実現し、「高気密」「高断熱」「24時間換気」の3つがセットになった高性能住宅です。加えて「FPの家」では、そこに住む家族の構成までを考慮して換気計画を練っています。クリーンな空気ですべての負担をなくして家族の健康を守る「FPの家」で、あなたの理想の暮らしを叶えませんか。

